

第61回 岐阜市総合交通協議会

1 開催日時、場所

令和8年6月5日（金）10：00～11：20

岐阜市役所12階 第1研修室

2 出席者

17名出席（別紙出席者名簿参照 代理6名、欠席1名）

3 議事

- （1）令和7年度事業報告及び決算について
- （2）令和8年度事業計画及び予算（案）について
- （3）監査委員の選任（案）について

4 報告

- （1）岐阜市総合交通計画の各事業の取組み状況について
- （2）地域公共交通確保維持事業の二次評価結果について
- （3）その他

5 議事の結果

- ・議事1 令和7年度事業報告及び決算について 全会一致で承認
- ・議事2 令和8年度事業計画及び予算（案）について 全会一致で承認
- ・議事3 監査委員の選任（案）について 全会一致で承認
- ・報告1 岐阜市総合交通計画の各事業の取組み状況について
- ・報告2 地域公共交通確保維持事業の二次評価結果について
- ・報告3 その他

6 議事録

○開会

（司会 松本係長）

～開会、資料確認～

～協議会規約第7条第2項に基づき、本会議が成立していることを報告～

○あいさつ

（岐阜市 阿部副市長）

改めまして、皆さんおはようございます。岐阜市副市長の阿部でございます。本日は朝早くからお忙しいところ、会議にご参集いただきまして、誠にありがとうございます。また、平素より本市の交通行政にご理解ご協力を賜っておりますこと、改めて御礼申し上げたいと思います。

本市は、ご案内の通り、令和6年3月に策定いたしました岐阜市総合交通計画に基づきまして、様々な交通に関する施策を展開しているところでございますけれども、こうしたなか、特に公共交通ですね、人口減少に伴う、利用者の減少や、燃料費をはじめする物価高騰ということがありまして、今大変厳しい状況であると思っております。さらにバスにつきましては、運転手が大変不足しているということで、市民の皆様の足を確保する上で、これらは喫緊の課題であるというふうに私も考えているところでございます。私の方でも、手をこまねいているわけではなく、まず運転士の確保としましては、昨年度新しい取り組みとして、市営住宅を活用して、運転士の方のいわゆる住宅の負担を軽減するというので、取り組ませていただいております。まだまだ数は少ないですが、活用いただいている事例も出てきております。これが今後の運転手の確保に少しでも寄与するよう、我々も引き続き取り組んでいきたいと思っております。

また、運転士は、この先どうしても急激に増えていくということはなかなかないと思いますので、自動運転についても、実装に一步でも近づけるように、2023年から、5年間継続の実証運行をしているというところでございます。1月に新しい車両を入れて、これまで路上駐車はなかなか避けられなかったのですが、これもかなりスムーズに避けられるということで、今、手動の介入率が1%という状況で、ほぼほぼ自動という状況まで来ております。少し不具合があって、新しい車両は休止しておりますけれども、できれば我々としては、このレベル4に向けて、一気に階段を上っていききたいというふうに思っているところでございます。

また、これらの他にも、バスまちばということで、いわゆるバスのバス待ち関係の改善、これもどんどん場所を増やすとともに、今年度はコミュニティバスと路線バスの結節点においても、これを展開していこうとも考えております。また、バスの利便性という意味で言うと、岐阜バス様に大変ご尽力いただきました。昼得切符を夕方1時間、時間延長していただきましたけれども、これはしっかりアピールしていきたい。それからやはり小さいお子さんたちに、バスって大事だよと、しっかりみんなに乗っていこうねということで、モビリティマネジメントに取り組んだり、イベントを実施したりと、様々取り組んでいるところでございます。いずれにいたしましても、将来にわたって、この公共交通、市民の皆さんの足が持続可能なかたちで確保できるように、市としてもしっかり取り組んでいきたいと思っておりますので、協議会の皆さんにも引き続きご尽力いただき、またご協力いただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

本日の議題ですけれども、まず令和7年度の事業報告と決算、それから令和8年度の事業計画の予算案3項目についてご審議いただきたいと思います。また、ご報告事項といたしまして、岐阜市総合交通計画の各事業の取り組みの状況をご報告させていただきますとともに、地域公共交通確保維持事業の二次評価結果についてご報告させていただきたいと思います。

最後になりますけれども、委員の皆様におかれましては、専門的な見地から、ぜひ忌憚ないご意見、ご指導いただきますとともに、活発なご議論ができますようお願い申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(司会 松本係長)

ありがとうございました。それでは、只今よりお手元にお配りしております次第に則して、議事に入らせていただきます。

～協議会規約第7条第1項に基づき、議事の進行を倉内議長に依頼～

(倉内議長)

倉内でございます。どうぞよろしくお願いいたします。では、座って議事を進めさせていただきます。

まず、今回の議事録の署名につきまして、山田委員ならびに服部委員の方をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

次に、本会議につきましては、規約第7条第3項に基づき、原則公開となっておりますので、傍聴人にお入りいただきますが、ご異議ございませんでしょうか。(異議なしの声)

WEBの方で意義のある方は、Teamsの挙手のボタンでお答えください。(異議なしの表示)

大丈夫ですね。ありがとうございます。それでは、入場いただきます。よろしくお願いいたします。

～傍聴人入場～

(倉内議長)

もしカメラの撮影等がございます場合には、自由な意見交換の観点から、会議の妨げにならない範囲で認めるということにいたしますので、議事の開始までの間にお願いします。傍聴人は、必要であればカメラ等で撮影してください。議事開始後も、傍聴人の途中入場が可能となっておりますので、ご承知のほどよろしくお願いいたします。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

○議事(1) 令和7年度事業報告及び決算について

(倉内議長)

議事(1)「令和7年度事業報告及び決算について」、事務局から説明願います。

(事務局 水谷)

～「議事(1) 令和7年度事業報告及び決算について」説明～

(服部委員)

着座にて失礼いたします。監査報告、岐阜市総合交通協議会規約第13条第3項の規定により、令和7年度決算について監査を実施し、証拠書類・帳簿等について精査したところ、適正に執行されていたことを認めます。令和8年4月27日、監査委員、岐阜市商店街振興組合連合会理事長、服部弘典。

(倉内議長)

ありがとうございます。それでは、質疑の方に入りたいと思います。

ただいまの説明についてご意見、ご質問のある委員の方は挙手お願いします。WEB出席の方もTeamsの挙手ボタンでお示しください。いかがでしょうか。

(金森委員)

名古屋大学の金森です。ここで質問するのがいいかわからないですが、バスまちば事業、資料

1－2のところで、国土交通白書にも掲載されて、他の地域にも展開されているということで、かなり好事例だというふうに思っておりますし、今後、横展開がまた進むのではないかと期待されるところです。そこで、このバスまちばの定義を再確認したいということと、今のご説明のなかでは、協議会で設置をする、店舗さんや協賛いただくところにはスペースをお貸しいただく、通常は岐阜バスさんの方がやられているというようなかたちだと思います。前回もお聞きしたかもわからないですけど、民間の施設さんも、お客さんが増えるとか、そういう期待があってご協力いただけたらと思いますし、そういった声はまた是非あればご紹介いただければと思うんですけども、もう少し通常のランニング維持のところ、例えば電気代とかどうなっているのかなとか、スイッチオンオフはコンビニさんとかやってくれるのかとか、岐阜バスさんの方の負担が減るような、そういう活動方針ですとか、方向性。あくまで通常のバス停のように交通事業者さんが維持するというようなかたちでやられているのかという現状と、今後、利便性、利用者からするとバス待ちの環境が良くなっているんですけども、交通事業者さんの維持のコストを下げるような取り組みになるとよりいいのかなと思ったりしますので、そのあたり少し補足の説明ですとか、方針を教えてくださいなと思いますが、いかがでしょうか。

(倉内議長)

はい。事務局いかがでしょうか。

(事務局 森係長)

ありがとうございます。交通政策課の森と申します。よろしくお願いいたします。ご質問いただいた件につきまして、説明させていただきます。バスまちば事業になりますが、金森委員からご説明があった通り、今、総合交通協議会でモニターを設置させていただいております。そして民間施設、コンビニや、銀行であったりというところに、スペースをお借りして、利用しているような状況になります。維持管理の方ですけども、基本的には岐阜バスさんの方で、すべて電気代、あとは通信費の維持管理をしていただいているような状況でございます。

こういった状況で、2点目の質問にもなるんですけども、岐阜バスさんのコストというところで言いますと、我々としては、やはり利便性を高めるために、どんどんバスまちばの箇所数を増やしていくというところで、今取り組んでおります。必要のあるところに、やはり利用が増えるようなかたちでモニターの設置等をしておりますので、今後も引き続きバス待ち空間の整備をしていきたいと思っておりますが、ご意見いただきました、スペースを貸す側、民間施設の方の負担というところに関しては、今後、様々な協議等をしながら、検討していきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

(金森委員)

はい、ありがとうございます。そうですね、交通事業者さんのご負担は普段と変わらないかもわからないんですけども、より連携が強化されるというかたちで、例えば電気代ぐらいは店舗さんの方が持ってください、というような調整ができるとよりいいのかなというふうに思いました。今後、戦略的にコミュニティバスと幹線の乗り継ぎですとか、そういったところに増えていくと思います。待ち時間が消費行動等につながるとしますので、そういった進め方もご検討い

ただければなと思いました。

あと、技術的なことなるんですけれど、岐阜バスさんのデジタルサイネージモニターというのは、GTFS とかそういうのがあれば、他の県内とかそういった市町村にもあの展開できるのでしょうか。なにか特別なデータがないとダメなのかということ、すみません私勉強不足なんですけれども、岐阜バスさんの、そういうリアルタイムの情報が使われているんだろうなと思うんですけれど、その辺り岐阜バスさんに質問していいのかわからないですけど、どうやったら横展開できるのでしょうか。例えば岐阜県下で、他にこういう岐阜バスさん以外のところで導入したいってなったときに、どういうデータが必要なのかということと、長岡とか小田原でやられているので、バスの標準的なフォーマットを使って対応されているのかということところです。

(事務局 森係長)

はい、ありがとうございます。

岐阜バスさんの方で、今、バスロケーションシステムということで、運行情報の可視化ということで、すでに様々な場所 JR 岐阜駅や主要なバス停に、モニター等を設置しながら、今どこを運行しているのかというところが分かるようにしていただいているような状況です。そういった情報をコンビニ等でも見れるようにしていただいているというような状況になりますので、他都市においても、同じように今どこにバスが運行しているよというような GTFS データが公開されているところもありますので、データを使いながら、他都市でも展開していけるということで認識しております。

(金森委員)

はい、ありがとうございます。標準化に近づいてるのか、標準化されているのかわからないですけど、GTFS 関係でこういう表示ができるのいいことかなと思います。それが岐阜発だというのも、素晴らしいことだと思いました。はい、以上です。

(倉内議長)

はい、ありがとうございます。これも私も聞いたかもしれないですけど、バスまちばによって、利用者数の変化というところについては何か把握されていますでしょうか。

(事務局 森係長)

はい、ありがとうございます。バス利用者の調査の方なんですけれども、一昨年、実際にモニターを設置させていただいておるコンビニ等で調査はしたところではありますが、実際にイートインスペースを使った方がバスに乗ってどこに行ったというところまでは、やはり当然、店舗の従業員さんをお願いすることもできないところでもあります。実際アンケートと言っても、協力いただける方も限られ、難しい状況ではあったので、今後、実際どういう方が利用されて、どういう効果があるのかというところは、しっかりと検証していきたいなと思っているような状況です。今はバスまちばを設置することで、イートインスペースで待ってくれる方が増えたというようなお声はいただいているところではあるので、そういった声をどういうふうに定量化していくのかというのが、また今後の課題かなと思っています。

(倉内議長)

はい、ありがとうございます。そうですね、もちろん岐阜バスさんにご協力いただかないといけないかもしれませんが、各バス停で、いわゆる定量として乗降客数が増えたかどうか、そして特に登録された IC ですと、おそらく年齢層とかも分かりますので、例えばこういったバスまちばにおいて、お年寄りの方がより乗ってくださるようになったのか、逆に高校生の方が使ってくれるようになったとか、そういったところの量的な分析も少しはできるのかなと思ったものですから、また検討いただければと思います。あと併せて、以前このバスまちばとサイクルポートを整備していくというような事業もやられてたと思うんですけど、そこはリンクしてないんですかね。いかがでしょうか。

(事務局 森係長)

昨年実施したスーパーマーケットバローさんと岐阜信用金庫さんにおいては、ベンチ等の設置にはなっているんですけども、一昨年設置した場所に関しては、サイクルポートも設置させていただくなかで、自転車を置いてバスに乗って行っていくということで、実施させていただいたところではあります。今後、同じように、自転車を置いていくという乗り継ぎ拠点は、検討していきたいなと思っておりますので、全く別物とは考えていないんですけども、必要に応じて、そういったところも整備していければなと考えております。

(倉内議長)

はい、ありがとうございます。そうですね、結局ここが小さなトランジットセンターのようなものになっていくとすると、今申し上げたようなサイクルポートでありますとか、もう少し広く考えれば、今やっているレンタサイクルのポートが出てきたりすると、もっと連携が増えていくかなと思うので、また検討いただければと思います。すみません、バスまちばにばかりにご質問させていただきましたけれども、その他いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。それでは、ご意見、ご質問等なくなったようですので、この議事についてお諮りしたいと思います。

議事(1)「令和7年度事業報告及び決算について」、議案の通り承認することにご異議ございませんでしょうか。(異議なしの声)(異議なしの表示)

それでは、ただ今の議事につきましては、原案の通り承認することとします。

○議事(2) 令和8年度事業計画及び予算(案)について

(倉内議長)

引き続いて議事(2)「令和8年度事業計画及び予算(案)について」、事務局から説明をよろしくお願いします。

(事務局 水谷)

～「議事(2) 令和8年度事業計画及び予算(案)について」説明～

(倉内議長)

今の説明についてご質問、ご意見のある方は、よろしくお願いします。いかがでしょうか。よろしくお願いします。

(川口委員)

岐阜県の公共交通課の川口でございます。運転手不足で、バスの廃線が懸念でもあるように、運転手支援事業というのは非常に重要な観点で、これまでも実施しておられますし、令和8年度もやっていただけるとのこと、大変心強く思っております。説明のなかでもございました通り、興味・関心を若者に持っていただくということでの取り組みが並んでおりますけれども、直接的な雇用結びつくような、例えば、岐阜市さん主催での合同企業説明会ですとか、あるいは、UIJターン支援、あとは地元企業とのマッチングとか、そういった事業を多分この都市建設部さんではなくて、産業振興部門、経済部ですかね、そういったところが市全体で行っている事業に、バス事業者さんも絡めて実施していただくことで、直接的な雇用支援につながるかなと思いましたが、アイデアベースで恐縮ですが、一度ご検討いただけると幸いです。ありがとうございます。

(倉内議長)

はい、ありがとうございます。そういったところ、現状なにかあれば、事務局の方から、ご説明いただければと思います。

(事務局 森係長)

はい、ありがとうございます。この運転手雇用の関係なんですけれども、直接運営していただいております岐阜バス様のお声をいただきながら、先ほどのUIJターン等、そういったところの雇用状況ですとか、実際にどういった方が入社されているのか、どういった方がエントリーされているのかという状況も聞きながら、我々岐阜市として、どういったことがサポートできるのかというところの観点は、毎年検討をしているところです。具体的に、合同説明会など、そういったところのお声も岐阜バス様の方からいただいておりますので、今後岐阜市として、どういったことが協力できるのかということも関係部署を含め、我々もしっかりと検討していきたいと考えております。

(倉内議長)

ありがとうございます。よろしいですか。その他、いかがでしょうか

(事務局 桐山課長)

はい。交通政策課長の桐山でございます。先ほどの森からもお話しさせていただいたように、いろいろなデータ、運転手さんになられる方、応募される方のデータも岐阜バス様から聞き取りをさせていただきながら、支援策を考えていくわけですが、先ほどご案内させていただいたように、市営住宅の活用をされたお一方にもヒアリングさせていただいたところ、この制度を活用することがメインとなって入社されたという話を聞いているのと併せて、岐阜市が住みやすいから入社したというような話もいただいております。そういった形で、岐阜バス様の方で、各地で説明会等される際には、岐阜市の方のPRも合わせてご協力させていただけるようなことも

できないかなということも検討しております。また、この総合交通協議会の事業としても、岐阜バス様にも負担いただきながら、岐阜市も負担しながら皆様方で連携し、こういった取り組みをさせていただいておりますので、検討していきたいなと思っております。

(倉内議長)

はい、ありがとうございます。それでは、その他いかがでしょうか。はい、お願いします。

(金森委員)

名古屋大学の金森です。モビリティマネジメントに関して、また予算がついているっていうのは、私は非常にいいなと思っております。他の自治体ですと、残念ながらなかなか効果が定量化しづらいモビリティマネジメントの予算をどうしても削減されてしまうっていうような事例もありますので、岐阜市さんが継続的にやられるってことは非常に良い判断ですし、応援したいなと思っております。自動運転という分かりやすい題材があるので、学校教育、特に小学校の方々がご協力いただけるのかなというふうに想像はしているんですけども、やはり学校教育モビリティマネジメントのもう1つ頑張ってやっていただきたいというのが、小学生から親のところにどうやって波及させるかというところです。なかなかこれも定量的な効果は把握しづらいですが、夜、何かしら今日自動運転乗ったよっていうのをしゃべってもらっているのを効果としては期待しております。それをまた昼得きっぷですとか、そういったものもありますよっていう、子供向けだけでなく、学校でもらって、親に、次土日に行ってみないか、という仕掛けも、ぜひ予算のあまりかからないなかでやっていただいて、親の方にループさせるというのをぜひ今年度以降、すでに実施されているかもしれないんですけども、そちらも少し、ウェイト、視点をおいただけるとありがたいかなと思いました。はい、コメントになりますが以上です。

(倉内議長)

はい、いかがですか事務局。

(事務局 森係長)

金森先生がおっしゃられるように、やはり、子供だけに留まらず、家に帰って親と一緒に公共交通を考えてもらうということが、我々も非常に重要だと考えておりますので、昨年度からモビリティマネジメントに対するアンケートを児童の皆さんにお願いしているところであります。今年は、これからモビリティマネジメントが始まっていくわけですけども、家に持って帰って、親子で公共交通について考えてもらうということを踏まえたアンケートを実施して、その効果に関しては、アンケート結果をもとに、我々の方で考えていければなと思っているところです。

(金森委員)

素晴らしいと思いますし、またそういうモビリティマネジメント、なかなか全国的にそういう効果、難しいところがありますので、学会などで公表いただけるとありがたいなと思います。はい、ありがとうございます。

(事務局 桐山課長)

あわせて、すみません。補足というか、自動運転を活用した学校モビリティマネジメントを令和5年からスタートして、延べ30校、約2000人以上の方にお子様に乗っていただいています。よくお子様方からお手紙をいただきます。そのなかでも、親子で乗ろうというふうに思った、ということを書き書いていただいている感動してしまうんですけども、そういった乗ってまた街に行こうと思った、というようなことも書いていただいておりますので、先ほどお話しさせてもらったアンケートも通じて乗っていただくように、またさらに街に出ていただくように、特に商店街の皆様も含めて、各施設とも連携しながら、そういう発信もしていけたらなと思っていますので、よろしくお願いいたします。

(倉内議長)

ありがとうございます。私もここにコメントしようかと思っていたんですけども、あの面白い取り組みだと思います。一方で、これも先ほどおっしゃられた通りで、令和5年から9年までに全部の小学校でということは悪くない、政策的目標としては全然わかるんですけど、小学生はどんどん変わっていくわけですね。そう考えた場合に、実は全小学校やればOKというものでもないはずですし、その先どうしていくかというのをぜひ考えていただきたいということ。このモビリティマネジメント自身、学会も出来上がっていて、いろんな技術が開発されているという理解もあります。先ほどの、親の方というのは、フィードバックプログラムというかたちで行っていたりしますので、そういった技術的な最新のものも取り入れたり、あるいは逆にこの面白い取り組みを、先ほど金森先生もおっしゃられましたけど、学会で公表するみたいなことも通して、もっともっとこれを高度化していただけるといいかなと思いますのでぜひよろしくお願いいたします。

はい、ありがとうございます。その他、いかがですか。はい、よろしいですかね。はい。WEBの方も大丈夫ですかね。ありがとうございます。それでは、ご意見も尽きたようですので、この議事についてお諮りしたいと思います。

議事(2)「令和8年度事業計画及び予算(案)について」、議案の通り承認することにご異議ございませんでしょうか。(異議なしの声)(異議なしの表示)

それでは、ただ今の議事につきましては、原案の通り承認することとします。

○議事(3) 監査委員の選任(案)について

(倉内議長)

続いて議事(3)「監査委員の選任(案)について」事務局から説明をお願いします。

(事務局 水谷)

～「議事(3) 監査委員の選任(案)について」説明～

(倉内議長)

ただいまの説明につきまして、ご意見のご質問のある方はよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この議事についてお諮りしたいと思います。

議事（３）「監査委員の選任（案）について」、原案の通り承認することにご異議ございませんでしょうか。（異議なしの声）（異議なしの表示）

それでは、ただ今の議事につきましては、原案の通り承認することとします。

本日の議事はこれで終了ですが、報告の方がございますので、報告について事務局の方から説明をよろしくお願いします。

○報告

（事務局 水谷）

～「報告１ 岐阜市総合交通計画の各事業の取組み状況について」説明～

～「報告２ 地域公共交通確保維持事業の二次評価結果について」説明～

～「報告３ その他」説明～

（倉内議長）

はい、ありがとうございます。今の報告事項につきまして、何かご質問等ございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

（柴原委員）

中部大学の柴原です。資料４のモニタリング指標です。資料の見方を教えてほしい、例えば７のモビリティマネジメントの実施件数だったら去年が２１件ですね。今年だと、先ほどの説明で小学校１７校でした。これは必ず評価は丸じゃなくなることが確定しているという見方でいいのでしょうか。

（事務局 森係長）

ありがとうございます。モビリティマネジメントですけれども、学校教育モビリティマネジメントの他にも雇用促進のために市立女子短期大学などでも実施しておりますので、必ずしもその１７校にとどまるわけではないということがまず一点あります。現時点ではあの１７校を予定しておるんですけども、どんどんリピーターといいますか、去年やってもらって今年もやってほしい、というお声はいただいておりますので、１７校は最低限で、昨年の２１校を超えるかどうかというところはまた別なんですけれども、今年度は今のところ１７件を予定しているということで、引き続き何から何でも増やしていくというわけではなくて、必要に応じて実施していくというところでご認識いただければというふうには考えているところです。

（柴原委員）

ありがとうございます。資料の見方で違和感があったのが、バスまちばの開設数や、シェアサイクルのポートの整備数は、これ累計で書いていくわけですね。だから必ずここはプラスになっていくわけだから、丸なんですよね。なので、少し不整合かなと思ったので、指標は工夫されると良いのかなと思いました。

(倉内議長)

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

(水野委員)

柳ヶ瀬商店街の水野でございます。2つ教えていただきたいことがありまして、1つがトランジットモール社会実験。これがどうだろう、もう何年目ですかね。7、8年くらいかな。中心市街地における車道を減らして、そこに歩行者空間を持つというのがあると思います。社会実験ということで長年されてきたということは、目的がある程度あってやられてると思うんです。それがある程度やってきたなかで、今どのような考えで、これを今後どうしていくつもりなのかという、今のお考えのところを1つ教えていただきたいと思っています。

もう1つがですね、自動運転バスですね。これも、今レベル4に向けていると思うんですけれども、こちらは何年に向けてどういう状態を目指していきたいのか、これもある種、現在は実証実験中というつもりで私も把握していますけれども、こちらはこの先どうなるのかという、この2点をそれぞれ教えていただけたらと思います。

(倉内議長)

はい、よろしくお願いします。

(事務局 森係長)

はい、ありがとうございます。まず、トランジットモール社会実験の件をお答えさせていただきます。長良橋通りや、金華橋通りで、社会実験を継続して実施させていただいておるところではあるんですけれども、将来の道路空間のあり方というところで、交通政策課の方から、パースも出させていただいてはおるところです。今、所管が道路建設課に変わっておりますが、道路空間を活用して歩きやすいまちなかにするというところを目指した取り組みを進めております。そういったところを目指すなかで、道路空間をどういうふうに活用して、市民が中心市街地でどういった暮らし方をするのか、どういった活動するのかというところを、社会実験の結果をもとに今、担当部署と共に検討しているところではあります。引き続き、昨年度は長良橋通りでトランジットモール社会実験を実施させていただいたところではあります。金華橋通りや他の通りも含めて、将来どういった道路空間にしていくかというところは、引き続き検証して行きたいというところではございます。

2点目の自動運転です。自動運転は運転士雇用というところもつながってはいるんですけれども、今、5年間の継続運行中でございます。5年間の継続運行中に、様々な検証をしていながら、これも将来、どういったかたちで岐阜市の中で自動運転を活用していくのかというところも含め、今社会実験中にはなりますので、岐阜市としても社会実験を通じて今後どうしていくかというところはしっかりと考えてまいります。

(水野委員)

いつまででしたっけ。

(事務局 桐山課長)

社会実験としましては、令和9年度末までが岐阜市としての実証実験というかたちになってございます。補足させていただきますと、自動運転につきましては、先ほどお話ししたように令和9年度末まで社会実験を行います。その後につきましては、事業者様が行っていけるのかというところに向けて、いわゆる社会実装に向けて取り組んでいくことになるわけですが、この実証実験中に、先ほどご案内させていただいたように、事業化に向けた課題解決というところの部分も検証しながら、令和10年度以降の社会実装を目指していくということでございます。あと、自動運転社会が本格的に到来するということも見据えながら、今後、令和10年度以降については、走る場所について、コミュニティバス等への導入検討についても進めていきたいというふうに考えおります。

また、トランジットモール社会実験につきましては、重複しますが、イメージとして、道路の利活用ということで、居心地のよく歩きたくなる岐阜市のまちなかというものをお示しさせていただいております。金華橋通り、長良橋通り等々の各通りについて、こういったイメージで人中心の道路にしていくのかということを協議させていただいているところでございます。その具現化ということで、トランジットモールの社会実験を行っているというところでございます。昨年度は、長良橋通りの社会実験を行ったところでございまして、具体には、9月27日から10月6日まで、名鉄岐阜駅前の部分で実験させていただきました。こちらについては、一般車を排除して、特に公共交通のみ、タクシーバスのみというかたちでの通行でして、また歩行者空間を広く取ることで、にぎわい空間も創出させていただくということで、非常に好評でございました。特に9割ほどの利用者の方々が満足であったとのご回答もいただいております。こういった取組によりこの社会実験を通じて、目に見えるかたちで体験をしていただきましたので、その次のステップとして、この道路空間をアクションプログラムとしてどうしていくのかというところを検討していくということになっております。

(水野委員)

ありがとうございました。トランジットモールは何年も継続して数年間実施していると私は認識しておりますので、実証実験で、あくまでその後の成果や、何か目的が大事だと思ったときに、その計画で出てきたお答えも、これまでも見ていると数年間変わっていない状態だと思います。ある程度見えているところはありますし、やりたいことがあると思いますので、それがある程度何年を目安に向けて動いていて、実際、途中のネックみたいなものがあればそれをご提供いただければ、何か中心市街地にご協力できることがあればさせていただきます。そろそろ多分次のフェーズに移らないと、やはりお客様も、車が通りにくいのが毎年あるんだけど、という声がやはり上がってしまうんですね。それが何も見えないなかだと、毎年なぜ行うのかとなってきたりするものですから、またそこは具体的なところを何かのサインで教えていただけたらと思います。以上です。

(倉内議長)

ありがとうございます。最後は非常に重要なご指摘だと思っています。やはり何年もやっていたなかで、先ほどご意見いただいた通りで、もちろん個々の社会実験に対して好評だったという

ことは、それはそれでいいんですけども、そのときに得られた成果が、先ほど一番初めに言われたビジョンにどう関係するのかとか、そのビジョンのどこをどういうふうに検証したことになるのか、何ができてなくて、次何をすべきなのかというところをもう少し俯瞰したかたちで総括していただけると、特に地元の方にとっては見えやすくなるんじゃないかなというふうに思うので、ぜひ検討よろしくをお願いします。はい、その他いかがでしょうか。

（金森委員）

名古屋大学の金森です。質問で、資料4の1のモニタリング指標のところのコミュニティバスの運営協議会等の開催数が、去年と比べて68回で大きく増えてるんですけども、これは想定外のような気がするんですけども、何があったのでしょうか。またこれも柴原委員がおっしゃられたように、目標が前年度以上になると、この倍増しているものはどう扱うのかなというので、このモニタリング指標というのは、今一度もう1回精査するっていうのも、このタイミングでありかなと思うんです。まずこの倍増したというのはなぜなんですか。

（事務局 桐山課長）

コミュニティバスの運営協議会につきましてのご質問ですけども、今年度、まずコミュニティバスは、地元の皆様方に運営協議会というものを設けていただきまして、地元の皆様が運行計画を策定するというスキームになってございます。そのスキームのなかで、運行にあたっては、要は収支の差額になります、いわゆる赤字額の上限值と、あとは収支率という基準を地域特性に応じて設けさせていただいて、それをクリアすると、また試験運行をしたら、本格運行されていきます。その3年後に同じチェックをして、本格運行を継続するかという判断がなされていくというスキームになってございます。昨年12月から今年度の11月までが判断期間になってございまして、まさに昨年度運行計画、この基準をクリアするためにどうしようというのを喧々諤々、地元の方で揉んでいただいたというようなところで、非常に回数が増えているのが実態でございます。まさにこの回数がこれだけあるということは、本当に自分ごとのコミュニティバスだということで、本当に熱心にご議論いただいた結果かなというふうに考えてございます。こういった経緯もございましたので、今年度はどうなるかというところは、引き続き、いろいろな利用促進、効率化に向けた議論を深めていただきたいというふうに思っておりますが、一旦減少する可能性はあるというようなところでございます。ただ、期待するところは、基準をクリアするために、もしくは継続的に運行していくために、利用促進をどうやっていくんだというところをより深めていただければなと思っております。実際、運営協議会の利用促進のテーマとして、こんなことをやろうという話があがってきていますのは、例えば高齢者に対してのモビリティマネジメントを開催したり、実際に開催していただいているところもありますし、モビリティマネジメントで乗り方教室を実施するとか、あとお出かけが促進されるようなキャンペーンですとか、喫茶店など地元のお店と連携しながら、というような議論はまさに今されているところでございます。

（金森委員）

はい、あの状況を理解しました。まさに最後、課長さんおっしゃられたように、これはあくまでモニタリングで、住民さんが、まあそういうコミュニティバスを維持するための活動ですとか、

企画っていうのも含めて、モニタリング指標として含めれるといいのかなというふうに思いました。またそのあたり、実態に応じて、住民さんが頑張っているという活動がうまく反映できるような指標になるというのかなというふうに思いました。

コメントになるんですけれども、自動運転、今後コミュニティバスの方に展開されるって先ほどコメントがあり、それはいいことだなとは思いますが。資料5で、運輸局さんの方から報告に対する期待する取り組みというところで、データ分析ですとか、そういった観点をやはりやっていく必要っていうのはあるんだろうと、運輸局さんもお考えですし、私もそうなんだというふうに期待するところなんですけれども、自動運転ですとか、かなり DX みたいなものは進んでいる印象があるなかで、じゃあデータどうやって取っていくかとなったら、10 カードとかそういうのは導入されて、それで利便性、利用者利便性が上がっていると思うんですけれども、そういった意味で乗り継ぎの施策ですとか、もしかしたら ayuca の方が良かったというふうになる可能性もありますし。そういったところで柔軟なサービス展開とか連携とかデータ収集等は MaaS アプリなどを使った方がいいのではないかとこの観点もあるかと思います。私、名古屋鉄道さんをご提供されている、カスタマイズが比較的楽な CentX のマイクロ MaaS というアプリと一緒に作らせていただいているんですけれども、どこの商店街でチェックインしたとかっていうのも把握できたりしますので、先ほどのバスまちのりばでこれをチェックしたら、お得なクーポンやそういった特典が貯まるっていうようなかたちでデータ収集することもできて、こういったところでバスまちのりばの利用者数がカウントできるようになったり、そういう乗り継ぎもできたり、あと観光客、インバウンドなどにも MaaS アプリ、比較的対応しやすいものが QR 等そういったものも使えたりもします。またどこかのタイミングで、デジタル化、DX の一環として、MaaS アプリ、そういったデータ収集とかデータ利活用の操作性の良い媒体を導入するというのも、ぜひご検討いただけるといいのかなというふうに感想を持ちました。以上です。

(倉内議長)

前半の方でモニタリング指標をもう少し検討してもいいんじゃないかというご指摘をいただいたと思います。これは計画の中に書き込まれているところなので、ここはこことしてやるというのは理解するんですけれども、先ほどの2のコミュニティバス運営協議会の開催数等でありましたけれども、1も、おそらく昨今の運転手の状況を考えると、この便数がどんどん増えていく状況が起こりうるかという、なかなか難しい。でも、コメントとして書いていただいているように、おそらく減ってしまったとはいえ、効率性は確保する、乗客数は確保するっていうところがまあ重要なところであるとする、これはこれとして、プラスアルファ必要に応じて、そういった、例えば便あたりの乗客数でありますとか、そういったものを参考値としてもっておく。そしてそれを毎年、もしデータをお借りできるのであれば、そういったもので評価するようなこともあっていいんじゃないかなと思いましたが、今後ともご検討いただければと思います。はい、ありがとうございます。その他いかがでしょうか。はい、よろしくお願いします。

(加藤委員)

岐阜商工会議所の加藤でございます。私のほうから2つ伺いたいと思うのですが、今回ピント外れだったら申し訳ないです。資料を拝見していますと、この交通に関わる方って、どちら

かという住んでいらっしゃる方、市民の方の目線が中心かなと思って拝見してまして、例えば先ほど、水野委員がおっしゃられたように、中心市街地という話になると、多分来街者の方、例えば他からの買い物目的を楽しみで来る方とか、あるいはあの今非常に多くの方が来場されている岐阜城楽市、ロープウェイになると観光目的でいらっしゃる方もあるかと思うのですが、今後そういった目的の方の交通利用ということをお考えになっていらっしゃるのかというのが1つです。

それから経済の方で申し上げますと、岐阜市はナイトタイムエコノミーを推奨していらっしゃると思います。昼の時間も当然大事だと思うんですが、これから暑くなってくると、夜の方の活動が増えてくるんじゃないかな。あるいは推奨していらっしゃるの、そういったこととの連携というのが交通政策の中で何か考えていらっしゃるか、この2点についてお伺いできたかと思います。

(倉内委員)

はい、いかがでしょうか。

(事務局 森係長)

ありがとうございます。1点目の、中心市街地等、観光の点です。交通の面から言いますと、岐阜バス様の方で、岐阜城と連携した企画切符等の販売もしていただいておりますし、岐阜市としましても、岐阜バス様と連携しながら、岐阜城楽市にバスで行く、公共交通で行くと、割引クーポンがもらえる、ですとか、土日・休日のファミリーパークにバスで行くと同じように割引ができるよっていうような、企画乗車券もあります。そういったかたちで、観光という点でも、当然重要な部分になりますので、中心市街地にある商店街さんであったり、柳商連、市商連さんとも連携しながら、多くの方が商店街に来てもらえるような取り組みをいろいろと進めていきたいなと考えているようなところなんです。まずその辺は商店街さんとも個別に相談させていただきながら、こんなことができるといいなということは、いろいろとやっていきたいなというふうなところで考えております。

あと2点目の夜の部分にはなるんですけども、コロナ禍の影響や、バスの運転士不足の件もありまして、バスの夜の便数が減っているような状況ではあります。バスだけにとどまらず、タクシーの運行事業者さんとも、いろいろ相談させていただきながら、夜の移動の足というところ、交通事業者とともに検討していければなというところでございます。

(加藤委員)

ありがとうございます。ぜひ他の部署とも連携して一貫してやっていただけたらと思います。特に私もこの予算拝見してまして、岐阜バスさんは負担金まで出しているということなので、そういうことを考えると、ぜひ何かメリットがあることがあるといいなと思います。以上でございます。

(事務局 桐山課長)

お話しいただきましたのは、中心市街地と観光の面ということでございますが、まずもっては、

この交通自体の主たるものが通勤通学だということで、市民目線というところをまずはもっていながらも、先ほどお話しいただいたように、人口も減少していった、また公共交通を維持、未来につなげていこうとすると、もうワントリップ、お出かけをしていただくということも非常に大切でございます。先ほどご説明いただいた観光、岐阜城楽市、岐阜公園周辺での連携であったり、今昼得きっぷというのがございます。平日、昼間帯に、ワンコイン乗り放題で、その取り組みとの連携ということで、柳ヶ瀬ガラスル35の商店のお店と連携をしながら、昼得きっぷを持っていくとお安くなるというような取り組みを、今、現在もやっていただいているといったところでございますので、こういった昼得きっぷのようなツールと合わせて、商店街の各施設の皆様との連携も深めていきたいというふうに考えてございます。

(加藤委員)

ありがとうございます。ぜひ、通勤通学の定期プラスの収入が入るような取り組みをしていただけたらと思います。

(倉内議長)

その他いかがでしょうか。よろしいですかね。Webの方も大丈夫ですかね。はい、ありがとうございます。そうですね、報告についてはこれで終わりたいと思いますけれども、本日の議論の中でやはり関係部署としっかりと連携をしてというような言葉が何回か出てきたかと思います。各関係部署の部長さんも来ていらっしゃるということで、交通が交通で終わらなくなってきているというのは間違いないところですので、そういったところの強化をぜひ検討いただきたいということと、あとは私も少しコメントしましたが、どうしてもバスを中心とした議論になるのは当然なんですけれども、上と下の交通と言いましょうか、例えば自転車、その他徒歩もそうですし、そういったところとのシームレスの乗り継ぎのような視点で、実はあまり議論されていないのが、車からの乗り継ぎなんですよね。パークアンドライドもそうですし、多分岐阜ですと、郊外にいたときに全てバスで移動しようというのがなかなか難しいところもあるということを考えたとき、そういった視点での議論もここでできるんじゃないかなと思っておりますので、今後検討いただければと思います。

それではご意見無くなったということで、報告についてもこちらで終わりたいと思います。

こちらで本日の予定は終了いたしましたので、進行を事務局の方にお返しいたします。

○閉会

(司会 松本係長)

～閉会～

(以上)

岐阜市総合交通協議会 委員名簿

分類	所属	委員 (敬称略)	備考	参加方法
学識経験者	岐阜大学工学部教授	倉内 文孝	副会長・議長	現地参加
	名古屋大学未来社会創造機構特任教授	金森 亮		現地参加
	中部大学工学部教授	柴原 尚希		現地参加
公共交通利用者	岐阜市自治会連絡協議会会長	神田 定夫		現地参加
経済団体	岐阜商工会議所専務理事	加藤 剛		現地参加
	岐阜市商店街振興組合連合会理事長	服部 弘典		現地参加
	岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会理事長	水野 琢朗		現地参加
路線バス事業者	岐阜乗合自動車(株)代表取締役社長	葛西 信三	(代理) 常務取締役 相宮 一夫	現地参加
タクシー関係	岐阜県タクシー協会副会長	山田 健太郎		現地参加
警察(公安委員会)	岐阜県警察本部交通部長	桂川 裕幸	(代理) 交通規制課 次席 山下 文雄	Web参加
関係行政機関	国土交通省中部地方整備局建政部長	小倉 佳彦	(代理) 都市整備課長 藤田 剛	Web参加
	国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所長	宮本 久仁彦		現地参加
	国土交通省中部運輸局自動車交通部長	古橋 靖弘		欠席
	国土交通省中部運輸局岐阜運輸支局長	横山 義洋	(代理) 首席運輸企画専門官 石野 栄一	現地参加
	岐阜県県土整備部長	藤井 忠直	(代理) 道路維持課 道路管理企画監 廣瀬 英樹	Web参加
	岐阜県都市建築部リニア未来都市局長	戸田 克稔	(代理) 公共交通課 交通企画監 川口 義治	現地参加
	岐阜県岐阜土木事務所長	広瀬 隆男		現地参加
岐阜市	副市長	阿部 一臣	会長	現地参加